

British Politics Today

2014年3月1日
第3巻 第3号

著者 菊川智文,

www.kikugawa.co.uk
tomo@kikugawa.co.uk

この号の内容

- 1 はじめに
- 2 メルケル独首相に擦り寄る
キャメロン首相
- 3 スコットランド独立防止の誤った
努力
- 4 労働党の1人1票制
- 5 ビジョンを欠いたクレグ自民
党党首
- 6 公務員の政治的中立



1. はじめに

記録をとり始めた1910年以来最も雨の多い冬で洪水が各地で起きた。世論調査で労働党との差をつめてきていた保守党が再び労働党に差をつけられはじめた。政府の対応の遅れを指摘されたキャメロン首相は「洪水対応でお金に糸目をつけない」と発言。かつて国民は自然災害を仕方がないと受け止めたが、今では政治家を責めると慨嘆する声がある。

2. メルケル独首相に擦り寄るキャメロン首相

2月27日にロンドンを日帰りで訪問したメルケル独首相(1954年7月17日生まれ)に、キャメロン首相は議会両院の議員らにスピーチさせ、エリザベス女王とお茶を飲む機会を作るなど特別待遇でもてなした。EUとの関係を巡り、このメルケル訪問で自分の立場を強化しようとする意図があつてのことだ。

キャメロン首相は、来年5月の総選挙で保守党が勝てば、EUとの関係を大幅に見直した後、2017年末までにEUにとどまるかどうかの国民投票を実施すると約束している。EUとの関係を見直す、つまり、EUから権限を取り戻すにはEUの盟主ともいえるドイツのメルケル首相の協力が不可欠である。メルケル首相と懇意な自分はそれができる、そして3ヶ月後に控えた欧州議会議員選挙では、英国のEUからの脱退を唱える英国独立党(UKIP)に投票せず、保守党に投票すべきだと訴える目的があつた。

国民の4分の3が英国のEUとの関係を見直そう求めており、もし現在のままだと、英国はEUを脱退すべきだと考える人の方が多い([昨年12月のYouGov/Sun世論調査](#)参照)。そのため、国民投票を約束しているキャメロン首相にはEUとの交渉が不可欠となる。

キャメロン首相は、2010年10月、メルケル首相を、英国首相の別邸に招待した。一方、2013年4月には、メルケル首相がキャメロン夫妻とその3人の子供をドイツ首相の別邸に招待した。この関係で二人がより親密になったと思われる。しかしながら、今回の訪問ではキャメロン首相の思った効果が出たようには思われない。

メルケル首相は、ベネフィット・ツーリズムと呼ばれる、EU内のより貧しい国から福祉手当を求めて来る人たちへの対策をとることは必要だとしたものの、英国人の多くが最も問題があると見ている、EU内での人の移動の自由は「EUの土台」だとした。ベネフィット・ツーリズムは、実際にはそう多いわけではなく([NIESR指摘](#))、メルケル首相は自国の国益を考えたのだろう、それ以上踏み込む発言を避けた。

翌日のタイムズ紙には、最近まで松葉杖をついていたメルケル首相がキャメロン首相とヘイグ外相の股間を握って両手に掲げ「だれが松葉杖を必要なのか？」とした風刺画が掲載された。どっちつかずのリップサービスをするメルケル首相に対し、キャメロン首相のことさら親密振りを装い、擦り寄るような態度が残念に思われた。

3. スコットランド独立防止の誤った努力

スコットランド独立に関する住民投票が9月18日に行われる。現在、世論調査では、独立反対が賛成を10ポイントほど上回っている。

独立をめぐるさまざまな議論が交わされているが、サモンド・スコットランド首席大臣がウェストミンスター中央政府大臣たちがスコットランドをいじめていると非難した。

このきっかけは、独立後も英国の通貨ポンドを共有したいというサモンド首席大臣の意図に反し、オズボーン財相がそれを否定し、また労働党も自民党も反対する意思を表明したことだ。

その上、大手スーパーマーケットのセインズベリーのトップが、独立すれば食物の価格が上がると発言したり、エネルギー会社BP、銀行のRBSやエンジニアリンググループのWeirなどが独立を不安視する発言をしている。さらにスコットランドに本拠を置く、大手生命保険会社スタンダード生命が、独立の際の対応策を検討し始め、スコットランド独立派には打撃となっている。

住民投票の結果がどうなるうとも、長期的に見ればウェストミンスター側から独立阻止への圧力がかかっていると見られることは英国にとって大きなマイナスのように思われる。スコットランドには、かなり強い反イングランド感情がある。その感情がさらに悪化することになりかねないからである。

早春の公園

4. 労働党の1人1票制

労働党は、3月1日にロンドンで開いた特別党大会で、労働党と労働組合員との関係を改めることを大多数の賛成で決め、何人もの党首が労働組合の反対で成し遂げられなかった党首選での1人1票制をとることとなった。

今回の変更の主な点は以下のとおり。

1. 党首選挙でこれまでの3つの選挙人団方式(下院/欧州議会議員・労働組合組合員・一般個人党員)から1人1票とすることにした。これまでは、この3つの選挙人団が3分の1ずつの比重を占めていた。その結果、2010年の党首選挙では、現党首のエド・ミリバンドが、労働組合員の票で優勢であったため、本命と目されていた兄のデービッド・ミリバンドをわずかの差で破り、党首となった経緯がある。
2. 党所属下院議員のみが党首候補を推薦する。
3. これまで労働党に加入している労働組合の組合員は自動的に労働党の準党員となり、年に3ポンド献金してきた制度を改め、献金は自ら意思表示をする方式に変える。ただし、そのような意思表示をする人はせいぜい10人に1人程度ではないと言われる。この切り替えは、5年かけて行う。
4. 完全な個人党員のみが下院と地方議会の候補者を選択できる。

急な変化はないかもしれない。労働党への献金がどの程度減るのか、または、どの程度労働党の党員や活動家が増えるのかは今後見極める必要がある。

この改正は、労働党の強い選挙区で労働組合最大手のユナイトが、自分たちの押す人物を候補者に選定させようとした事件に端を発する。2013年7月、ミリバンド党首が改革を提案したが、当初労働組合側からかなり大きな反発もあった。労働党などの政治家の中には、ミリバンド党首の「勇気」をたたえる声もある。



5. ビジョンを欠いたクレグ 自民党党首

前号で自民党の前チーフ・エグゼクティブ、レナード卿のセクハラ問題と自民党党首クレグ副首相の対応について触れた。この問題は、クレグのビジョンの欠落と直結していると思われるので改めて触れておきたい。

2007年12月、クレグが党首に就任後、当時のチーフ・エグゼクティブのセクハラ疑惑の報告を受けたが、下院当選1回の自分の首席補佐官にレナード卿に会わせ、警告するにとどめた。欧州議会議員を1期務めたものの、クレグはまだ当選1回であり、党内における基盤が弱かったようだ。一方、レナード卿は自民党が60を超える議席を持つ政党に成長するのに大きな役割を果たした選挙の専門家で、党内に大きな影響力を持ち、下院選挙に立候補したい女性たちは声をあげにくい立場にあった。

このセクハラ問題を2013年始め、民放ニュース番組の女性ジャーナリストが取り上げた。クレグは、この報道への対応を遅らせた挙句、勅撰弁護士に調査を依頼した。このような手法はマスコミの注目をそらせ、有権者に関心を失わせ、事態の好転を待つためによく使われる。

2014年始めに提出された調査報告は玉虫色の内容だったが苦情を訴えた女性たちへの謝罪をレナード卿に求めたものであった。ところが、それをレナード卿が拒否した。自民党はレナード卿を党の名誉を毀損した疑いで調べるため党員資格停止処分とした。その処分の撤回を求め、レナード卿は訴訟を起こす見通しである（次ページに続く）。

庭の水仙



雑記

騒々しい下院

毎週水曜日恒例の30分間の「首相への質問」は異常に騒々しい。先だって、議長がゴブ教育相に「興奮しすぎている」、「千回、行動を慎むと書く必要がある」と注意した。「落ち着きなさい、ヨガを始めなさい」と注意された議員もいる。議長は喧しい下院に辟易し、とうとう主要3党の党首に、それぞれの議員の規律を求める手紙を書いた。

保守党にはQチームという「口撃隊」がある。労働党の野次もひどい。両者がお互いに侮辱しあっている。一般の人たちの多くは、これを子供じみていると見ている。メディアがこのような騒々しい姿を一種の劇場のように見て、楽しんでいると批判する人もいる。問題は、他の職場では許されないようなことが下院で行われていることだ。1961年に始まったこの行事も大改革が必要だ。

ダイエットしているトップ政治家たち

昨年、スコットランドの首席大臣アレックス・サモンドが5:2ダイエットを実践していることが話題となった。このダイエットは、週7日のうち、5日はダイエットを気にせず食事をし、2日間だけ一日当たり600カロリー以下に抑えた食事をするというものだ。

サモンドは、6ヶ月で相当に体重が減ったといわれる。労働党の影の財相エド・ボールズも実行しているそうだが、キャメロン政権のジョージ・オズボーン財相も始めたと伝えられる。このダイエットでは、体重が減るほか、血圧を低下させ、病気から守るなどの効果があるとされるが、英国の国民健康サービスNHSはそこまで信じていない。ただ、これから勝負の時を迎える政治家たちにとっては、健康管理はきわめて大切な戦略の一環といえるだろう。

5. ビジョン(続き)

自民党は改めて、不名誉な事件で注目され、しかも、ただでさえ財政が苦しいのに、この訴訟にかかる費用の問題は新たな頭痛の種となっている。

この問題の根底には、自民党内部での女性の扱いと、クレツグの自民党へのビジョンの問題があるように思われる。自民党は、主要3政党の中で最も女性議員の割合が低い。[57人中7人](#) (労働党は255人中86人、保守党は304人中48人)。しかも、自民党の比較的強い選挙区候補者は男性で占められており、支持率の低下している中、次期総選挙で女性議員が1人もいなくなる可能性がある。

自民党は性差によるすべての不平等をなくすと訴えているが、言うこととその行動には差がある。

クレツグは自分の率いる自民党をどのような党にしようとしたのか？被害を受けた女性たちの苦情を間接的に聞き、レナード卿には間接的な内々の警告にとどめた。クレツグは、それで女性の活動しやすい環境が党内に整うと考えたのだろうか？被害を受けた女性たちがそれで納得すると考えたのだろうか？党首になったクレツグはまったく目立たなかった。自民党をどういう党にするかのビジョンがなかったためのように思われる。



ウィンブルドン公園の
若いガチョウ

6. 公務員の政治的中立

英国のトップ国家公務員は、それぞれのポストに最適かどうか(On Merit)で任命されることになっている。しかし、この例外が次第に増えてきている。それぞれの省庁のトップである事務次官にもその例外があるべきかどうか議論があり、その結果、2014年1月、人事委員会(Civil Service Commission)が提案をした。つまり、首相がトップ2人の候補者から1人を選択するようにはどうかというのである。

この提案に対し、下院の行政委員会は反対の立場を取った(参照[行政委員会の報告書](#))。

現在、首相は選考委員会の推薦した人物を拒否できる。この実例として2012年11月にエネルギー・気候変動省の事務次官候補者の事例があるが、政治的なバイアスの印象を与えている。というのは、拒否された次官候補を選んだ選考委員会は、この省の事務次官を選ぶのにふさわしいと思われる構成だったからである。選考委員会の構成は以下のとおり。

- 人事委員会会長(First Civil Service Commissioner で元内務省事務次官)
- 内国公務員長(Head of the Civil Service 兼 コミュニティー・地方政府省)
- 省の首席非常任理事(Lead Non-Executive Director)でディアジオ社 CEO
- ニコラス・スターン教授(気候変動のスターン報告書委員長、財務省元第2事務次官)
- 環境・食糧・農村省事務次官

大臣(自民党)も承認していたが、キャメロン首相が拒否した。もっと実務に優れた人物を求めたという見方があるが、政治的なバイアスの疑いを生んだ。

人事委員会会長が行政委員会での証言で指摘したように、2人に同じ能力があると判断される事例はまれだという。

人事委員会の提案そのものが政治的圧力に負けた証拠といえる。しかし、下院行政委員会(委員長は保守党)は英国の公務員の政治的中立を守ろうとしている。安易な方向に流されないその精神には敬意を払うべきものがあるように思われる。

引用、転載には引用先、著者名を明記して下さい。

コメント・配信お申し込み : tomo@kikugawa.co.uk